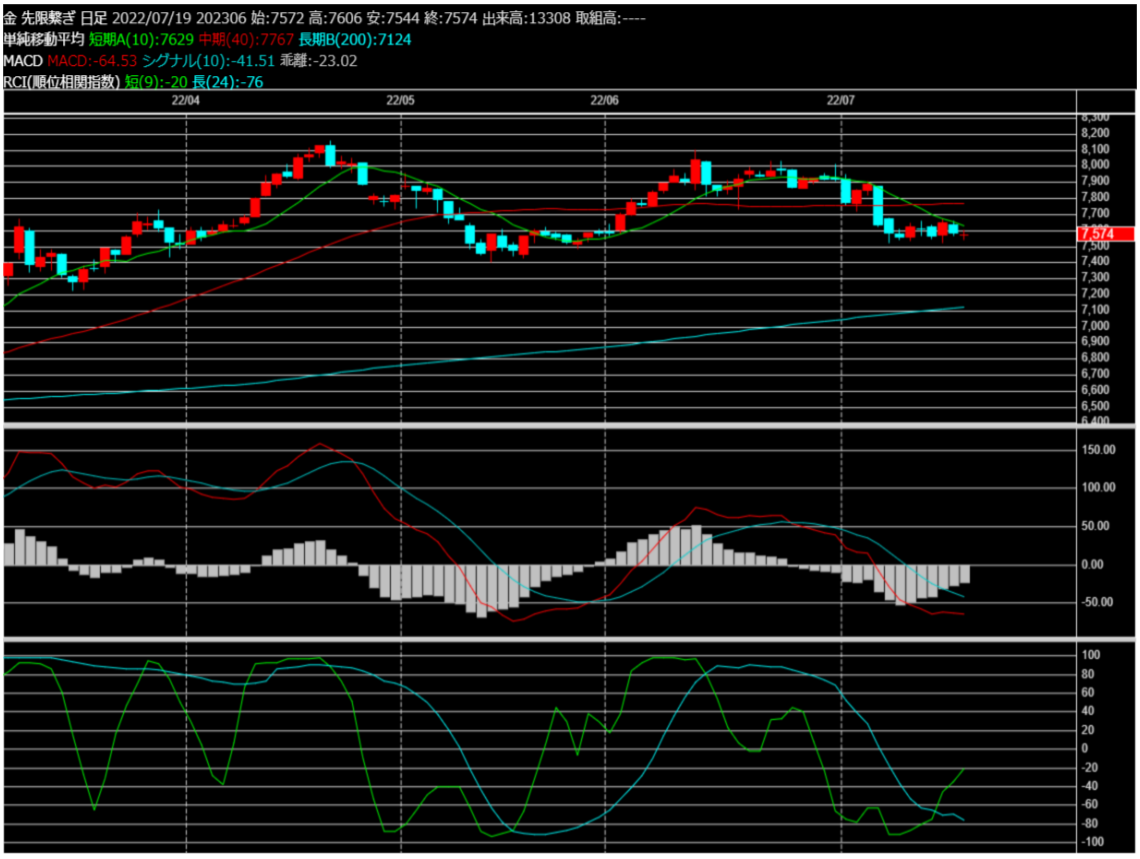
＜金標準先物、円安効果で 7700 円へ向けた戻りを示すか・・＞



（出所：オアシス）

6 月の消費者物価指数（CPI）が前年同月の事前予想の 8.8%を上回る 9.1%と 41 年ぶりに高いインフレを示し、ボスティク・アトランタ連銀総裁は「あらゆる行動を考慮」と発言し市場では 27 日の FOMC で 1%の利上げも 5 割が示唆するなど、過度なインフレ抑制の動きが強まりを示した事から 2002 年ぶりにユーロドルがパリティを超える 0.9964 ドルを付けている。特に市場は、41 年ぶりの高い CPI を受けても、金よりグリーンバック（ドル紙幣）へ目を向けており、ドル高の悪影響を受けた NY 金は 2021 年 3 月以来の終値ベースで 1703.6 ドルまで週足で下げている。ただ 2022 年のドル建て NY 金は週末までに 6.9%低下しているが、円建て金標準先物は 13.8%の上昇を演じている。

特に FRB と日銀の金融政策の違いもあり、「中央銀行に逆らうな」の格言で示される様に現在の「ドル高に逆らうな」が定説である。そのため円建ての金標準先物は、FOMC 以降は円安効果を受けて再度 7700 円に向けた戻りの値動きに期待感が高まると思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では MACD が下げ止まりながら、シグナルが下げるなど、乖離を示すヒストグラムが縮小を示している。RCI は短期が上昇し、長期は切り上げており、目先日足が 10 日移動平均線（7629 円）の抵抗帯を上回る事が出来るかに注目される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,488,000 円（2022 年 7 月 19 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円（2022 年 7 月 19 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-3249-8827 （受付時間：平日 8:30～17:30）
証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp